

## 一般演題【HBO装置関連】

### 第1種装置から第2種装置への移行を経験して

林 慈子<sup>1)</sup> 武藤雄一郎<sup>1)</sup> 大和田直樹<sup>1)</sup>  
猪狩菜月<sup>1)</sup> 大谷佳広<sup>1)</sup> 萩野雅之<sup>1)</sup> 小山 敦<sup>2)</sup>

1) いわき市医療センター 医療技術部 臨床工学室  
2) いわき市医療センター 救命救急センター

マニュアル化を進める必要がある。またスキルアップのため、学会認定の高気圧酸素治療専門技師や日本臨床工学技士会の高気圧酸素治療関連専門臨床工学技士の取得をめざす必要がある。

#### 【はじめに】

当センターは昭和25年に開設され、老朽化等の問題から平成30年12月25日に新病院「いわき市医療センター」を開院した。それに伴い、高気圧酸素治療(以下HBO)装置を第1種装置から第2種装置へ移行した。

#### 【経過】

当初第2種装置導入の予定はなかった。新病院建設による設備関連ヒアリングが始まった頃、火災によるCO中毒患者が複数発生し一日中HBOを行っていた。このため、当時ヒアリングに参加した臨床工学技士(以下CE)2名が第2種装置の導入を提案し、同席していた救命医も賛同したことから、導入へ向け準備が始まった。そして平成30年11月に設置完了し、同12月26日に稼働開始となった。

#### 【業務体制】

現在HBO業務に従事するCEは9名で、専任ではなくローテーションにて業務を行っている。さらに当センターは救命救急センターを有していることから、CEも24時間365日対応するため夜間休日はオンコール体制にて業務を行っている。

#### 【治療までの流れ】

1. 各診療科主治医が患者へインフォームドコンセントを行い、CEへ治療オーダーを出す。
2. CEはオーダーに基づき患者へ耳抜き方法や注意点等の説明を行う。また、治療スケジュールを作成し患者や担当看護師と情報共有する。
3. 治療開始

#### 【課題】

稼働実績は一定ではなく月によりばらつきがある。このため、担当CEの業務経験数にも影響している。さらに、ローテーションにて業務を行っているため個々のスキルにもばらつきがある。今後はローテーションによる弊害や、個々の解釈やスキルに左右されないよう